

独立行政法人国立国語研究所「病院の言葉」委員会 第5回実務委員会
議事要旨

1. 日時 平成20年7月2日(火) 14:00~17:00
2. 場所 国立国語研究所大会議室
3. 出席者 杉戸委員長, 有森委員, 稲葉委員, 柴田委員, 関根委員, 徳重委員,
吉山委員, 相澤委員, 吉岡委員, 田中委員

4. 会議の概要

(1) 第4回「病院の言葉」委員会実務委員会の記録の確認

- ・第4回実務委員会の議事録と議事要旨を確認した。

(2) 活動スケジュールについて

- ・活動のスケジュールについて確認を行った。

(3) 提案内容の検討

- ・提案に取り上げる語彙の類型を, 次の五つにまとめることについて, 各類型に属する語の検討を行いながら, 討議した。

類型Ⅰ. 分かりやすい言い換えを

実態: 一般に知られていない語であり, 意味・概念が理解されていない

対応: 日常語を使って, 言い換えたり説明を付けたりする

例: 浸潤, うっ血, 耐性, …

類型Ⅱ. 正しい理解のための工夫を

実態: 一般に知られている語であるが, 意味・概念が理解されていない

対応: 正しい意味・概念が一般に定着するように, 説明を工夫する

例: 炎症, 黄だん, ウイルス, …

類型Ⅲ. 重要語の普及を

実態: 一般に知られていない語であるが, 今後一般に普及させるべきである

対応: 重要な概念が言葉とともに普及するように, 説明を工夫する

例: MRI, ホスピス, セカンドオピニオン, …

類型Ⅳ. 誤解や混乱の回避を

実態: 一般に知られている語であるが, 誤解を招きやすく, 混乱がある

対応：誤解や混乱を回避するために表現を工夫する

例：貧血，糖尿病，ショック，…

類型Ⅴ．不安や恐怖の軽減を

実態：不安や恐怖など患者の心理的負担が，コミュニケーションに悪影響を与えている

対応：患者の心理的負担を軽減するような表現を工夫する

例：腫瘍，悪性腫瘍，がん，…

(4) 提案に添えるコラムについて

- ・ 類型別，語別の提案とは別に，医療の場におけるコミュニケーションについてのコラムを添えることについて，その内容や形式について，討議した。

5. 討議における主な意見

① 類型の立て方と，類型ごとの提案内容について

- ・ 五つの類型のうち，類型Ⅲ「重要語の普及を」は，類型に分ける指標からみると，類型Ⅱと区別するのが難しいように思う。類型ⅢはⅡにまとめて，四つの類型にまとめた方が良いのではないか。
- ・ 類型Ⅲは新しい医療の在り方にとって欠かせない重要語を取り上げたものであるので，独立した類型とする方が良い。
- ・ 類型Ⅲは，普及させたい言葉ということであるが，普及させたいとする主体や根拠を明確にすることができるのか。
- ・ 類型Ⅲとする客観的な根拠をデータとして示すことは難しいかもしれないが，委員会での検討経過を踏まえれば，言葉の普及が望まれる語を示すことはできるのではないか。
- ・ 類型Ⅰ・Ⅱ・Ⅳはその言葉を使った場合の問題と対処という言葉寄りの問題であるが，類型Ⅲ・Ⅴは概念的な問題である。Ⅰ・Ⅱ・Ⅳと，Ⅲ・Ⅴとでは，発想の次元が違うので，区別する必要があるだろう。
- ・ 提案において類型を提示する順序は，次元の異なるものを後に置き，Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ→Ⅴ→Ⅲとするのが良い。

- 類型ⅠとⅢの区別が資料からは分かりにくいと感じたが、類型Ⅰが旧来使われていた言葉についての工夫であるのに対し、類型Ⅲは新しく出てくる言葉や概念についての工夫であるということで了解した。類型Ⅰ・Ⅱ・Ⅳは言葉についての工夫、類型Ⅴは心理的な抵抗への工夫、類型Ⅲは未来を指向した新概念への工夫である。この五つの類型が分かりやすいだろう。
- 「これまでにある言葉」（類型Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ）と「これから出てくる言葉」（類型Ⅲ）と「心理的なもの」（類型Ⅴ）という三つに分かれていると分かりやすい。
- 類型Ⅴは、患者にとって心理的抵抗感のある言葉で、コミュニケーション上の注意が必要なものである。言葉に関する類型が三つ、コミュニケーションに関する類型が一つ、これからの医療に向けての重要概念に関する類型が一つ、という構成が良い。
- 類型Ⅲの問題として、カタカナ語やアルファベット略語が多く、それを避けると非常に長い漢語複合語になり余計に分からない、ということが挙げられる。提案の類型Ⅲの箇所には、そういった問題があることや、それへの対処などの説明がしてあると、医療現場に役立つ提案となる。
- 類型Ⅲに共通して医療者に求められる姿勢に、「積極的に踏み込んで説明する」ということが挙げられるだろう。
- カタカナ語やアルファベット略語の場合、ほかの語に置き換えて問題が生じないものは置き換え、置き換えることでかえって分かりにくくなるようなものは置き換えずにほかの方策を用いるのが良いと考える。カタカナ語やアルファベット略語がその語形で定着に向かっている、あるいはその語形での定着が望まれる場合には、定着するまで、暫定的に短い説明をつけて語形を用いる方策が考えられる。類型Ⅲについてもその方策をとるのが良いのではないか。
- 類型Ⅰ、Ⅲ共に「理解されていない」とあるが、類型Ⅰは「言い換える」対応、類型Ⅲは「重要語を普及する」対応とするとある。類型Ⅲの「MRI」「ホスピス」といったものは、名称を表すものが多く、アルファベットやカタカナであるために理解しにくいという点ではない点で、類型Ⅰの言葉とは異なるように思う。
- 類型Ⅲで、「エビデンス」「EBM」は見出し語ではなく「ガイドライン」の関連語として扱うという原案になっているが、これらは重要概念であり、見出し語として扱った方

が良い。両者は別見出しにはせず、一緒に扱うことも考えられる。

- 「脳死」「尊厳死」は、原案では類型Ⅱとなっているが、心理的抵抗や心理的負担は大きいと思われるので、類型Ⅴにすべきではないか。また、「緩和ケア」「ターミナルケア」「ホスピス」は、原案では類型Ⅲとなっているが、心理的な側面に着眼すると、類型Ⅴが妥当ではないか。
- 「インスリン」「うつ病」は、患者に伝える際に様々な問題を抱える言葉であるので、類型Ⅴに置くのが良い。
- 原案には「アルコール依存症」のような社会的に問題になっている言葉で、入っていないものがある。「アルコール依存症」は「うつ病」と同じ類型の語と考えられ、見出しにする必要はなくとも「うつ病」と同じ扱いのできる語例としてどこかに示せると良い。提案にはこのような形で、これまで検討していない語であっても必要に応じて取り上げても良いだろう。
- 原案には挙げられていないが、産科・婦人科、泌尿器科などの語には、患者が口ににくい語、使用する際に配慮が必要な語が多い。個別に語を取り上げる必要はないが、「心理的抵抗がある」というカテゴリの中で、まとめて言及した方が良い。
- 類型Ⅴでは「効果的な言葉遣い」「ここに注意」などの記述の充実が求められる。そのためには、委員会での議論だけでなく、「がんの告知」などをテーマに医師ら現場に携わる人たちによるグループディスカッションを行い、様々な発言を通じてより多くの現場の知恵を収集することが必要である。患者の心理的抵抗の強いテーマ、一つか二つで良いのでディスカッションを行いたい。自身はこれまでに何度か、このようなディスカッションを行ってきている。情報を委員会に提供するので参考にしてほしい。
- 「がん告知」「終末期医療」について、是非ディスカッションを行いたい。委員が有志を募って意見を聞き情報を委員会に提供するというディスカッションで良ければ、比較的容易に行えるので協力したい。
- 医療の世界で、歴史的背景に配慮して慎重に使わなければならないような言葉について、提案で触れる必要はないのか。医師に対する問題語記述調査では、そのような問題は多少出てきたが類型を立てるほど多くはなかった。重要な問題であるが、慎重な議論が必要な事柄であり、この委員会で結論を出すのは非常に難しい。

- ・ 「ポリープ」は、原案では、類型Ⅴに入っているが、この語の問題は意味が正しく理解されていないことであり、類型Ⅱではないか。「がん」に関連する言葉だからといって「がん」と同じ類型Ⅴに入れなくても良いだろう。
- ・ 「ポリープ」は類型Ⅱで扱う一方で、「がん告知」に関連して心理的な問題もないとはいえず、類型Ⅴでも扱う必要があるだろう。このように複数の類型にまたがるものについては、どちらの類型にも登場させ、相互に参照できるようにしたい。
- ・ 「P E T」はカタカナで表記されたり耳で聞いたりしたときには「ペットボトル」や愛玩動物の「ペット」と混乱する。医学における「ガイドライン」と、防衛など政治に関連した「ガイドライン」では意味合いが全く異なる。これらは類型Ⅲに分類されているが、「誤解や混乱」の観点からは、このような一般語との衝突についても注意を喚起する必要はないか。
- ・ 原案では、「浸潤」の提案例に、見出しの横に「転移」と「浸潤影」が同じように掲げられているが、「転移」は本文中に出てくる語、「浸潤影」は複合語に出てくる語であり、見出しにおいて区別して示した方が良い。
- ・ 本日の原案に示された個々の語の解説の中には、気になる記述がたくさんある。提案に向けた修正案は、随時出していきたい。

② コラムについて

- ・ 提案本体には盛り込みにくいことで、重要な話題は、コラムとしてまとめていきたい。コラムを中間発表時に示すのは、作業スケジュールとして少し大変である。コラムは、中間発表時ではなく、本発表時に公表することにはどうか。
- ・ 患者に、「医師にどんなことを説明してほしいか」というアンケートをしたところ、患者が医師の考える事柄とは異なる事柄に関心を持っていることがわかった。患者を代表する人にコラムを執筆してもらおうと提案の趣旨に沿ったコラムになるように思う。また、この調査をまとめるような形でコラムを書くことも可能である。

以上